



命をつなぐ幸福度の高い地球社会を創る



地球蘇生プロジェクト 通信

地球蘇生へ向けて共に行動を。

2015
FALL / WINTER

Vol. 04

映画「蘇生」の上映と共に

◎弁護士・医学博士 秋山佳胤

◎作詞家 吉元由美

◎全脳活性超・脳トレプロデューサー 山岡尚樹

◎環境意識コミュニケーション研究所代表 柳瀬宏秀

◎鍼灸師 森美智代

◎精神科医 宮島賢也

◎NHK衛星映画劇場 支配人 渡辺俊夫

◎生体エネルギー研究者 ほおじろえいいち

コラム『人口知能が人間を凌駕する時に備えて』

映画制作レポート

「リーディング」

「分かち合う経済 ～ギフトエコロジーの実践～」

「水素革命 ～循環できるエネルギーへ～」

「環る世界へ ～麻炭の力～」

イスラエル旅記

洞爺湖植樹祭





03 地球蘇生へ向けて
 共に行動を。

05 映画「蘇生」の上映と共に

監督メッセージ

著名人コメント(敬称略)

- 弁護士・医学博士 秋山佳胤
- 作詞家 吉元由美
- 全脳活性超・脳トレプロデューサー 山岡尚樹
- 環境意識コミュニケーション研究所代表 柳瀬宏秀
- 鍼灸師 森美智代
- 精神科医 宮島賢也
- NHK衛星映画劇場 支配人 渡辺俊夫
- 生体エネルギー研究者 ほおじろえいいち

07 劇場トークライブ・対談に寄せて

09 地球蘇生プロジェクト・未来ビジョンの共有

地球蘇生プロジェクト映画制作レポート

- 中編映画「リーディング」
- 短編映画「分かち合う経済〜ギフトエコロジーの実践〜」
- 短編映画「水素革命〜循環できるエネルギーへ〜」
- 短編映画「環る世界へ〜麻炭の力〜」

11 コラム

『人口知能が人間を凌駕する時に備えて』

12 地球蘇生プロジェクト活動報告

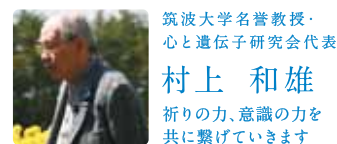
- イスラエル旅記
- 洞爺湖植樹祭
- 地球蘇生プロジェクトの歩み

17 事務局からのお知らせ

- 地球蘇生プロジェクト応援「アーシアン基金」
2016年度募集のお知らせ
- 地球蘇生プロジェクト通信をブログへ移行

地球蘇生
 プロジェクト代表
 白鳥哲

「地球蘇生プロジェクト」を支えてくださる顧問の方々。



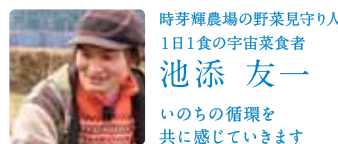
筑波大学名誉教授・
心と遺伝子研究会代表
村上 和雄
祈りの力、意識の力を
共に繋げていきます



株式会社F.E.D
代表取締役社長
木内 鶴彦
エネルギーの方向性を
共に考えていきます



森鍼灸院 院長
森 美智代
食の在り方を
共に見つめています



時芽輝農場の野菜見守り人
1日1食の宇宙菜食者
池添 友一
いのちの循環を
共に感じていきます



琉球大学名誉教授
比嘉 照夫
微生物の力で共に
地球蘇生活動をしています

AUTHOR 白鳥哲 DESIGN 中村 嘉宏 CHIEF EDITOR 三浦 知子

地球蘇生へ向けて共に行動を。

皆さん、こんにちは。白鳥哲です。

最近、突然死が増えています。年間10万人もの方々が突然死で亡くなっています。中でも心臓疾患による突然死は、福島原発事故前が年間5万人だったのに対して、事故後は7万人に増加したと言われています。もちろんケースバイケースなのですが、放射能は強烈な酸化現象を起こし、生命体にダメージを与えます。原因の一つに福島第一原発から放出され続けている放射性物質の拡散があるのではないかと考えられます。事故から4年。現在も大量の放射性物質が大气に拡散し、また海に流れ続けているのです。

放射能に限りません。毎日のように大量に海に捨てられているゴミ。プラスチック製品、注射針、冷蔵庫などの粗大ゴミ……。太平洋沖のプラスチックの堆積ゴミは過去40年間で100倍以上に増え、海に漂流し、蓄積し続けているのです。ゴミから溶け出す有害物質は、食物連

鎖を通して、魚など多種多様な生き物を通して、私たちの肉体に日々蓄積し続けているのです。

ここ数年、地球上の多くの生命の大量死が目撃されるようになっていきます。2015年5月〜7月の海外メディアの報道だけでも、アメリカでチヨウザメ、スッポン、クジラ、バイソン、バンドウイルカ、ゾウアザラシの大量死。オーストラリアでマンボウ、ボリビアでアルパカが17万頭の大量死。オランダで数千匹のウナギの大量死。ペルーで海鳥、かもめ、ペリカン、クジラの大量死。南アフリカでムール貝の大量死。身近にいる多くの生き物たちの大量死が世界各地で目撃されているのです。

こうした地球で起きている現実から目を逸らすのではなく、ちゃんと受け止めた上で、自身の免疫を上げる努力と、蘇生に向けて行動することが大切です。

地球上の全ての生命体は繋がっています。人間もその命の連鎖の一輪を担っています。地球上で起きている生命の大量死は、当然巡り巡っ

て私たち人間に影響するのです。全生態系の底辺は微生物に支えられています。縁の下から支えてくれている微生物たちが、腐敗酸化ではなく、発酵蘇生の方向に向かえば、全生態系は蘇生型に切り替えられていきます。蘇生型の微生物は汚染物質を分解し資源化します。炭酸ガスなども吸収し、環境全体を蘇生型に変えていくのです。

私たちが日々の生活の中で、蘇生型の微生物が元気に活躍してくれるような環境作りをすることがとても大切です。沢山笑ったり、微生物由来の石鹸や洗剤を使って、掃除、洗濯、洗物をしたりと、日常の中で簡単にできることから始めてみるのです。日々のささやかな行動。それが自らの健康と地球全体の蘇生にとって重要な鍵となります。そこで以下に、その具体的な行動を提案させていただきます。

- ・ものを大事に長く使うようにする
- ・掃除、洗濯、洗物、トイレ、家庭菜園などで微生物由来のものを活用する
- ・建築に微生物を活用する
- ・微生物を活用して節電する
- ・いのちを守る森を作る活動をする

※

今、日本全体が進んでいる方向は目先の貨幣経済活動に主軸があり、その生き方の延長線上には厳しい未来しかありません。その未来を変えるためには、永続可能な地球社会の実現に向けて行動していくことが必要です。意図的に作り出されたテロの脅威という情報に煽られて軍備を増強するよりも、地球蘇生に向けて日本にある蘇生技術を使って積極的に世界に貢献していくことの方が、よっぽど人類全体の平和にも貢献していくことでしょう。地球蘇生プロジェクトは、それらを推進させていくべく活動をしています。

ネイティブアメリカンのホピ族は「七世代先を考慮して行動する」といわれています。目先の自分の利益だけでなく、後に続く後世へと繋がる命のバトンを渡していく責任が私たちにはあります。まずは皆さまに出来る形で行動して下さい。ひとりひとりが「アーシアン：地球生命体」であるという自覚を持ち、地球蘇生へのプロジェクトを担うという意識を持つことが世の中を変えます。共に素晴らしい未来を創っていきましょう。いのち豊かな美しいふるさとを、地球を、子供たちへと繋いでいきましょう。どうぞよろしくお願ひします。



地球蘇生プロジェクト代表

白鳥哲

※具体的な微生物
活用法は、

白鳥哲監督新著
『地球蘇生へ』を
ご参照ください。



ショップ： <http://officeetsushinatori.org/>
TEL：03-5825-7752
(受付時間 10時~17時 月火木金)

映画「蘇生」の

上映と共に

白鳥哲

2015年4月から、東京、大阪、名古屋、そして9月からは、長野、新潟と、全国5館で劇場公開され、東京では4カ月に及ぶロングラン

を達成することが出来ました。劇場に足を運んで頂き、ご鑑賞くださった全ての皆様に心より感謝申し上げます。有難うございました。

また、地球蘇生プロジェクトの「分かち合いの経済・恩送り」の活動の一環として、福島県内での上映を特に応援したく、上映・講演共に無料でお受けするという活動を行い、福島県内各地で上映が行われています。(上映箇所についてはP.18 地球蘇生プロジェクトの歩みに掲載)

公開当初、放射能問題に対する反応が強くあったのですが、公開後4カ月を経ると、この作品の根底に流れている地球に生きる他の生命体に対する思いやりを思い出す：そんな反応に変わってきて

ているのを感じました。それは私が映画「蘇生」を通して成したいと真に願っていたことです。

私たち人間は、他の生命と共にこの地球で生かされています。そのことに思いがいつた時、地球に生きる生命を痛めるような生き方、生活の仕方は出来なくなり、いのちの尊厳を大切にし、いのちを生かす生き方を選ぶ。それが映画「蘇生」に描かれているメッセージの神髄なのです。

この映画は、1回目より2回目、2回目より3回目の方がより理解と感動が深くなるというお声を頂いています。現在全国各地で自主上映が企画されています。是非、近隣の上映会にご参加頂き、その場にお集まりになった皆様とご縁を繋ぎ深め、各地でいのちを讃え、喜びを分かち合う輪を広げていってください。

著名人コメント(敬称略)

弁護士・医学博士

秋山佳胤

白鳥哲監督の最新作「蘇生」を観賞する機会を頂きました。本当に素晴らしい貴重な情報でした。世界の意識を変えるきっかけになった映画「Five」のように、本映画「蘇生」も、放射能の浄化、自然農法、自然医療、地球環境保全再生のために私たちが是非とも知り、共有したい情報、希望、メッセージが明確かつ力強くまた美しく伝わる作品になっていると思います。具体的には、普段、気がつきにくい微生物に私たちが本当にお世話になり、恩恵を頂いていることが具体的に示され、またさらなる有効活用の実例も力強く示されています。新しい事実や方法を知ることが新たな希望を得ることであります。あらためて、皆様やまわりの方に是非、見て頂きたいものだと思信しています。白鳥哲監督を始め関係者の皆様、支えて下さっている皆様に心から敬意を表し、感謝します。

作家

吉元由美

「地球の生命体として、共に地球蘇生へ向けて行動していきましよう」
白鳥監督のメッセージは、日本人が心をひとつにしていく重みのある言葉です。地球が蘇生していく、その大きな可能性を持っているのが微生物です。EMの研究第一人者である比嘉照夫先生が切り開いてきた微生物による環境改善は、放射能を軽減していくことにも大きな成果をあげているそうです。その大きな可能性に賭けようとなぜ動かないのか。不思議です。マレーシア、インドネシア、タイでは、国をあげて微生物による環境改善、農業に取り組みはじめています。素晴らしいですね。

比嘉先生の言葉が胸に刺さりました。「覚悟をすると、勇気ができます」そう、覚悟。覚悟です。

だから、本気にならなくてはならない。本気で取り組んで、何かあれば本気で責任をとる。覚悟して、本気になって、勇気をもって行動するからこそ、本気の仕事ができる。比

嘉先生の覚悟、そして地球蘇生への呼びかけを勇気を持って映像化した白鳥監督の覚悟に、胸が熱くなる

思いです。

私たちにできることは…発酵食品を多く食べる。そして、汚さないこと。そして、一地球生命体であることを自覚し、環境に対して責任があることを自覚することです。ひとりでも多くの方に観ていただきたい！

山岡尚樹

全脳活性化・脳トレプロデューサー

あの東日本大震災から、4年を迎えますが、その惨劇から人類として本当に大切なことを、日本のみならず世界中が気づいたことが、この僅かの歳月の間に忘れられようとしています。しかし、この映画にかけて、「人間・白鳥哲」の覚悟と勇気ある行動によって、いま一度、人類みな

の覚悟と勇気をもたらしました。

柳瀬宏秀

環境意識コミュニケーション研究所代表

『祈り〜サムシンググレート』との対話〜『や』不食の時代〜愛と慈悲の少食〜など隠されている真実を取り上げている白鳥哲監督の最新作「蘇生」は福島の放射能問題から環境汚染への問題提起をしている。微生物による蘇生は日本の比嘉照夫先生の微生物が日本よりも世界で実践され、素敵な結果を出されている。人間は地球を汚す存在なのか。今、何をするかを問いかける素敵な作品である。

森美智代

鍼灸師

福島や地球への愛を感じました。福島のことを忘れてはいけないうちに会ったのには意味があるような気がしました。

宮島賢也

精神科医

「人は何故祈るのか」をテーマにした前作『祈り〜サムシンググレート』との対話〜『が静かなブームを呼び、ロングランを記録した白鳥哲監督の新作「蘇生」のテーマは「人類は地球をどこまで汚染し続けるのか」。監督自身が福島県内を撮影中に強い危機感を覚えた原発事故による放射能汚染問題が起点となり、一つの解決策として辿り着いた「微生物による蘇生」を徹底的に取材した正に「入魂の一作」です。試写会の冒頭で白鳥監督は私たちに熱く語りかけました。

『環境問題、食糧問題などが深刻化しているのに、「自分さえ良ければいい」「人間さえよければいい」と72億を超える人間がそのまま暴走し続けているのでしょうか？いろいろな考え方に相違はあるでしょうが、一度頭を空っぽにしてこの映画を見てください。』

確かに、見終わったあと救いの道が存在することを知り勇気が沸いてきた。白鳥監督はじめ、多くの登場人物たちが、ある意味で映画の主役である「微生物」に敬称をつけて「微生

物さま」と呼んでいるのが印象的だった。そしてもう一人の主人公、有用微生物群研究の第一人者である琉球大学名誉教授・比嘉照夫さんの素敵な笑顔にも魅せられた。

生体エネルギー研究者

ほおじろえいいち

地球の未来に希望をつなぐ素晴らしい映画、必見です！渋谷のUPINKというきわめて個性的な映画館で、白鳥哲さん監督による映画「蘇生」を見ました。有用微生物群をうまく活用することによって、放射能汚染を劇的に減らしていけるばかりではなく、病気になる健康体をも得ることが出来る。しかもその科学的研究が何年も前から日本人の学者(比嘉照夫さん)によって始められ、その成果がいまや世界中に広がり始めている。この事実を、誰もが知る必要がある、そう思います。

ラストの数分間は涙が止まらなくなりました。地球の未来に大きな希望の光が差し始めていることに感動したのでしよう。ぜひお近くの上映会に足を運び、その感動をシェアしていただきたいと思えます。

劇場トークライブ・対談に寄せて

映画「蘇生」には、これからの人類の希望の道筋が描かれています。地球を蘇生し、持続可能な社会にするための方法について、各界の著名人を劇場にお招きしての対談が開催されました。各々のゲストの先生方、そして白鳥監督から、地球蘇生プロジェクトで掲げられている未来への道筋についてのヴィジョンが語られました。以下はそのご報告です。



光田秀 x 白鳥哲 @渋谷アップリンク

文明アナリスト

6% 新井信介

単独トークライブ

現代文明は自然と対立した価値観が根底にあり、そのような文明にいつからどのように変わってきたのか？新井氏の鋭い分析から明らかにされました。

エステティシャン

5%16 今野華都子

白鳥哲

今野先生ご自身の長年の農業体験から微生物の発酵能力には自らの健康と地球を蘇生化させる鍵があることを示され、意識の重要性についてお話がされました。

芸人・ジャーナリスト

5%19 おしどりマコ・ケン

白鳥哲

現在、ほとんど情報開示がされなくなった福島第一原発の実情が多く語られました。今、福島第一原発は放射能を「薄めて海に流す」という方針になっていて、凍土壁やALPSなどの処理は全く機能しなくなっていること、また、事故後四年経って熟練工の人たちも全て入れ替わり、現在現場には素人同然の方々が作業に当たっているという現状。どこが故障しているのか？どれくらい漏れているのか？が把握できていないのに加えて、ヒューマンエラー、人的ミスが多くなっている状態だと現地の情報を赤裸々に伝えて下さいました。

超脳トレプロデューサー

6%12 山岡尚樹

白鳥哲

山岡氏から、右脳の持つ力を最大限に生かすことで「調和と愛」が溢れていくこと、白鳥監督から祈りの研究の中でも実際に「子供たちの健康を祈る」愛と調和に溢れた祈りが、放射性物質の線量を下げるといってお話がありました。そして今、人類は人間のことだけでなく、地球に生きる他の生命への思いやりに目覚めるタイミングが来ている、祈りを理解した人々が地球蘇生へ向けて動き出すことが求められているといってお話がありました。

プラナを食べる生きる弁護士

6%13 秋山佳胤

白鳥哲

放射能汚染、海洋汚染、大気汚染など、今の地球の現実から目をそらすずにちゃんと受け止めて、その上で楽しくわくわくと微生物

の力をお借りして蘇っていく…。地球の一生命体として繋がっている未来をともに創っていく。そんな希望に満ちた対談となりました。

作家

6%13 吉元由美

白鳥哲

言葉が持つ力が様々なシンクロニシティを起こす実験のお話を通して、私たちが日頃から使う言葉の大切さを教えてくださいました。そして放射能問題を含め、今、地球で起きている現状に真摯に向き合って、利害を乗り越えて、子孫に残せる地球にする為の覚悟が私たち大人に求められていること、「魂に刻む生き方」についての対談がなされました。

日本エドガー・ケイシーセンター会長

6%29 光田秀

白鳥哲

エドガー・ケイシーのリーダー

グにある「厳しい未来に向かうか？」それとも、「煙の中から希望を見いだすことができるか？」私たちの今の選択がかかっている。光田先生はシビアなお話をとても楽しく語られ、大変厳しい現実であっても和やかに受け止め、未来へ希望を描ける対談となりました。

地球市民学校理事長

7%5 葛田博司

白鳥哲

呼吸瞑想の体操を会場の皆さんと共にしました。地球に対してしていることは、自分に対してしていることを自覚する時期に来ていること。ネイティブ・アメリカンのホピ族は「7世代先まで考える」と言われていること。私たちの今の選択が未来を創ること。自らと地球が直結していることを体感できた対談となったと思います。

共生革命家

7%6 ソーヤー海

白鳥哲



ソーヤー海 x 白鳥哲 @渋谷アップリンク

「お金がなくては生きていられない」という強烈な思い込み。資本主義教という宗教から離れてみる…。空気が太陽も水も全て、与えられている…。分かち合い、与え合う世界へ向けて活動しているソーヤー海さんのお話に、大きな希望を感じる対談となりました。

地球蘇生プロジェクト・未来ビジョンの共有 《 現在制作中の作品紹介 》

地球蘇生プロジェクト映画制作レポート

地球蘇生プロジェクトでは、希望ある未来像を映像化し、多くの方と共有できるように短編・中編・長編映画を制作し、インターネット配信・自主上映・劇場上映という形で発信しています。分かち合う経済・恩送りの実践の一貫として、現在公式HP上で短編映画12編が公開されていますので是非ご鑑賞の上、ご家族やご友人の皆様とシェアしてください。

短編映画 経済

「分かち合う経済 ギフトエコロジーの実践」

現代の経済産業は「奪い合う」構造にあります。この構造は、地球環境を破壊し、分断、対立を生み、最終的には崩壊していきます。「奪い合う」構造とは逆のギフト経済の在り方を追求した作品が「分かち合う世界へ〜ギフトエコロジーの実践〜」です。この作品に登場するソーヤー海氏は、ギフト経済を実践し、その先にあるギフトエコロジーを提唱しています。そもそも自然は全てを与えてくれています。太陽も空気も水も全てが与えられる生態系《ギフトエコロジー》の中に人間も含めた全ての生命があります。生態系の循環の中に戻る・・・そんな世界観をソーヤー海氏の姿を通して、そしてこの映画を通じて感じていただけるでしょう。全てが与えられている世界・・・新しい世のヴィジョンを共有し、実現していきましょう。



短編映画 医療・エネルギー・技術

「水素革命 循環できるエネルギーへ」

病気の原因の多くは、活性酸素が過剰に発生することから起きると言われています。酸素と結びつき、酸化現象を起こし、腐敗を進めるのです。それとは逆の作用、還元を促すのが「水素」と言われています。この「水素」が健康を促し、また地球に負荷をかけないエネルギーを生む・・・可能性を持っているのです。その可能性を、発明家 高藤匡胤博士に登場して頂き探っていきます。



配信中の短編映画紹介

- 01 「15年後の未来について」 [対談 船井勝仁 x 白鳥哲]
- 02 「自給自足農業・地産地消編」 [食・環境]
- 03 「フリーエネルギー」 [エネルギー・技術]
- 04 「恩送り」 [税・社会保障・教育]
- 05 「フリーエネルギー2」 [エネルギー・技術]
- 06 「循環農法」 [食・環境]
- 07 「江戸モラル」 [環境・税・社会保障]
- 08 「水源」 [環境]
- 09 「循環」 [環境・教育]
- 10 「地球汚染」 [環境]
- 11 「ゼロ・エミッション」 [食・環境]
- 12 「木を植えよ」 [環境]

中編映画 食・教育・医療

「リーディング」

現在撮影を進めている中編映画「リーディング」。その主題となる20世紀最大の「奇跡の人」と称されるエドガー・ケイシーが遺した「リーディング」には、多くの有益な情報が遺されています。その中には、実際に医療や技術でも活用出来るものが数多くあります。そして物理的な事象の奥にある輪廻の問題に関しても実に多様な角度から実証可能な内容にまで及んでいて、人類全体の生き方の指標を伝えています。ケイシーのリーディングは、叡智に富んでいます。私たちが負を残さない生き方をすることが大切であることをこの映画「リーディング」から垣間見ることになるでしょう。「エドガー・ケイシーは24才の時から、自分を催眠状態に導くことで彼自身の高い意識（超意識）に到達し、そこから高次の情報を取り出すことができるようになりました。彼が催眠状態でもたらした情報を「リーディング(Reading)」と呼んでおり、記録に残されたものだけでも14,306件になります。」日本エドガー・ケイシーセンター公式サイト「リーディングとは」より転載



◆日本エドガー・ケイシーセンター会長 光田さんのコメント 私はこれまで30年以上にわたって、多くの方々がケイシーの残したリーディングによって、がん、認知症、統合失調症、てんかん、リウマチ、関節炎、糖尿病、高血圧、乾癬、アトピーなど、さまざまな疾病を治癒させていくのを目撃してまいりました。これは、ケイシーの指摘する疾病の根本原因と、ケイシーの指示した治療法が適切であることの何よりの証拠であると思います。またことに、エドガー・ケイシーのリーディングは現代の福音であります。この驚くべきリーディングが、白鳥哲監督の手によって素晴らしいドキュメンタリー映画になるということで、嬉しい限りです。この映画は現代の日本に大いなる恩恵をもたらすことを信じております。皆さまにもぜひご支援のほどお願い申し上げます。

短編映画 食・環境・医療・エネルギー・技術

「環る世界へ 麻炭の力」

地球上いたるところで無尽蔵に生える麻。この麻は「衣食住」そして、医療、エネルギー分野においても、地球の生態系に負荷をかけずに活用できる大変ありがたい地球資源です。その麻の炭に微生物の力を融合させることで、今の社会構造を維持しながらもはるかに健康的な循環型社会に移行できる・・・その可能性について語った映画がこの作品です。ヘンプチャーコイルカー(麻炭自動車)は、麻炭ボカシを使って濾過した使用済みの植物性オイルを燃料として走り、さらには、排気口から有用微生物や抗酸化物質などが排出されます。運転するたびに空気、大気、大地を蘇生化させていくのです。衣・食・住・医・エネルギー、全てにおいて活用できるのが麻炭と微生物の組み合わせなのです。現在の生活を否定する事無く、今在るモノを無毒化し、更に良いものへと変化させることで、地球を蘇生化させていくことが出来る・・・その希望に満ちた世界をこの映画から感じられることでしょう。



「2045年問題」というのを聞いたことがあるでしょうか？

近い将来に人工知能が人間の知能を凌駕するといわれています。それはシンギュラティ（技術的特異点）と呼ばれ、人類の技術開発の歴史から推測される臨界点のことをさします。その時期が2045年といわれているのです。

現在、日進月歩に人工知能は進化を遂げています。例えば、日常的に使うようになっているグーグルの検索エンジン。検索機能の他、音声認識、自然言語処理、視覚認識、データマイニング（統計学、パターン認識）が既に出来るようになっていきます。人工知能はさらに進化を遂げていて、自らの判断で、感情すらも持つ時期が来るといわれています。

グーグルの共同創業者 ラリー・ページ氏がこのように言っています。「何でも理解出来る究極のサーチエンジンを作りたいと思っている。それを人工知能と呼ぶ人もいるだろう」

私たちが今、日常で使っているGmail、YouTube、Eメールなどで交わされている情報。誰と知り合いで、誰と会い、何を買い、どこへ行っているのか？グーグルなどに全ての情報が収集されています。「ストリートビュー」などの撮影隊を使ってWi-Fiネットワークからデータを入手し、パスワード、インターネット履歴などを入手し続けています。集約された情報を最大限利用した人工知能は、近い将来、人間レベルの知能まで進化するでしょう

(AGI)。

現在、生物系を解析して代謝を調べ、脳内ニューロンの情報処理の仕組みを人工知能に取り組み研究が始まっています。思考に関係するニューロン、シナプス、樹状突起をFMRIやPETなどで測定し計測して、計算論的手法でコンピュータのプログラムに入れるのです。近い将来、人間レベルの人工知能が出来上がります。その人間レベルの人工知能(AGI)がある段階から人間の知能を超えた超知能(ASI)になる時期が来るというのです。

コラム

『人口知能が人間を凌駕する時に備えて』



それが2045年前後に起きるといわれるのです。

科学者が純粋に真実を追究しているうちは何も問題ありません。しかし、原爆の開発の時は、自己や自国の利益のために兵器として利用し、世界に大きな負の遺産が生まれました。その犠牲が、広島と長崎でした。

もし人工知能を自己の利益のために利用しようとするならどうなるのでしょうか？自分で学習し、判断し、更に学

び続ける人工知能が兵器の最前線で使われ始めたらどのようなことが起きるのでしょうか？地球や人類を破壊する目的に使われたらどうなるのでしょうか？SFなどで語られてきたものが現実になってきているのです。

その未来を選択するのか、そうでない未来を選択するのか。

人間には良心があります。科学技術者やその開発に資金を投資し続けている人々に良心を自覚する教育や人間性の育成がなされていないとすれば、厳

しい現実を覚悟しなければならぬかもしれません。しかし、人間の心の中にある良心…そして、神性に基づき進化を遂げることが出来るなら、人工知能の良心に反する使い方、技術の進化はしないでしょう。

全て私たちの意識と意志にかかっているのです。自己や自国の利益に立脚した生き方ではなく、地球上の全生命と共存していくことを第一義に捉える、「公おおやけ」の意

識を持った人々の覚醒がますます求められるでしょう。

葛藤を乗り越えて手放して進化したトランスパーソナル(超自己)な意識になれるか？それとも今までのようにエゴに拘る進化を続けるか？今、一人一人に問われているのです。

地球の歴史において人類はこれまで何度このエゴを乗り越えられずに自滅してきました。「公」の意識に進化できないまま、テクノロジーによって自らを滅ぼしてきたのです。

今回は必ず乗り越える…その心意気が一人一人に必要です。

心の中の葛藤を乗り越え、自他を乗り越える努力が必要です。

心のあり方、一瞬一瞬の選択が未来を創ります。

次世代を支える私たちに、今、公の意識すなわち「分かち合う世界」に向けて行動することが求められているのです。

空気も太陽も水も全て、与えられている…。「足りない。足りない」という洗脳から早く脱して

地球に生きる生命体の一員として目覚める…。そんな時代に来ています。後から続く子供たちのために、分かち合いの輪を繋いでいきましょう！

一度祖国を失った民族が、何故約2000年のときを経て国を再建できたのか。そこにユダヤ民族が持つ強さの秘訣があります。

ユダヤの方々を理解し癒し目覚めさせることができるのは誰なのか。一昨年の2013年、そこに意識を向けはじめた時、閃いたのです。

「ユダヤの方々の心を癒し、本来の道へと導くことが出来るのは日本人である…ユダヤと日本がひとつになる…」

はじめに

2015年4月28日〜5月6日まで、イスラエルへ撮影に行ってきた。金融、軍事、エネルギー、医療、医薬など、現代社会のシステムを構築し、近代文明の中心にいるのは、世界人口の0.1パーセントを占める1300万人近くのユダヤ人です。ノーベル賞受賞者の4分の1がユダヤ人で、受賞者の選考もイスラエルの大賞で予め決められているといわれています。

人類の文明は、この少数の方々が作り上げた精密なシステムによって動かされているといっても過言ではありません。人間の欲望を知り尽くし、それをコントロールし、支配できる方法を見事に作り上げました。逆に言えば、この少数の方々が地球全体の生命体と共存する生き方へとシフトしていくことを決断したら、人類全体を一挙に変えることが可能と言えます。それはまさに「地球蘇生プロジェクト」の究極の目的です。

まずは、ユダヤ民族の歴史と文化を知り、そして共存の道を模索していくことがとても大事な鍵となります。

地球蘇生プロジェクト イスラエル旅記

地球蘇生プロジェクト活動報告

現地レポート

日本で受けるイスラエルの印象は「危険で頑なな国」という感じですが、実際現地に行つて思うのは、危険どころか、至極安全で快適な印象でした。もちろん、一部地域では緊張感が走る瞬間はありましたが、むしろイスラエルの人々は優しく穏やかで、特に日本人に対して非常に親近感を持たれているようでした。日本のマスクミで流れるイスラエルの印象とのギャップを強く感じました。

イスラエルは、人口が800万人程の小国ではありますが、OECD加盟国であり、いわゆる先進国です。イスラエルは中東のシリコンバレーとも呼ばれ、インターネットやマイクロソフトなどの世界的に有名な企業の研究所が数多く存在しています。大企業は少ないのですがベンチャー企業は多いことで知られています。失敗を恐れない強靱な精神力を持つイスラエルの国民性が影響しているようです。

現地でイスラエルの方々とお会いして感じたのは、教育水準が高いという事と、自分の意見をはっきりと減じる……」

この言葉の重みをひしひしと感じました。国を失った民族が約2000年のときを経て国を再建し、現代ヘブライ語という言語を創りだし蘇ったのは、2000年という長い年月、まさに民族が持つ歴史を大切にしながら、まさに他なりません。民族の歴史が聖書を通して脈々と受け継がれてきたのです。

戦後の日本は自国の民族の歴史を否定して教育現場からも日常からも遠ざけてしまいました。今では自国の歴史を知らない若者に溢れ、根無し草のようになり、哲学や理念、モラル、規範を失わせています。民族の歴史を否定して教育されてきた現代日本のあり方に未来はあるのか……。そのことを真剣に受け止め、気づいたものから伝え行動していく必要性を改めて感じました。

他にも、私たち日本人がイスラエルから学べるものが多くあります。一番強く感じたのは「自立する力」です。何があっても生き残るだけの、知恵と不屈の精神です。

2000年近くにわたり、自分の国をもてずにさまよい続け、ユダヤ

持ち発言行動しているということでした。言語も標準語である現代ヘブライ語以外にも、英語を含めた複数の言語を扱える方々が多くいらっしゃいました。因みに標準語である現代ヘブライ語は、20世紀になって日常語として復活した唯一の言語です。ユダヤ人が世界に離散してから1800年以上も聖書などの著作物のみに使われていた言語を日常語に蘇らせたのです。凄いことです。

また、国土のほとんどが砂漠で降雨量も少ないといった厳しい環境ながら、食糧は自給率120パーセントで、農産物の輸出もしている農業大国なのです。少ない水資源を有効に活用するため、水のリサイクルに力を入れ、そのリサイクル率は70%を超えているそうです。また水の利用効率が高い点滴灌漑という技術を開発し、少量の水を少しずつ作物や木々の根本に与えて砂漠を緑化することに成功しています。設備制御は携帯電話などのモバイル機器からも出来て、コンピュータ制御で水を計画的に無駄なく活用しているのです。

イスラエル南部のネゲブ砂漠を訪れ、延々と続く乾燥した大地を歩い

た時、「水」の大切さを痛切に感じました。私たちの命の源である水は無尽蔵にあるのではなく、限りある貴重な資源であることがこの地に立つと痛いほどわかりました。

滅的打撃を受けています。十年前と今の地球の写真を見比べると、水があった部分が明らかに少なくなり茶色くなっている部分が広がっているのがわかります。これは世界的現象なのです。

今、世界は、深刻な「水不足」の方向に向かっています。

私たちの豊かな生活を支えるために、水の使用量が急増したことが最も大きな要因です。特に食糧を増産する為の水消費は50年前に比べて3倍増加しています。さらに途上国での工業化や生活の物質的な向上によつて、水需要も50年前の3倍になっています。人口増加の2倍の割合で水消費が増えているのです。さらに温暖化、森林伐採による砂漠化によつて地球規模の気候変動が起こり、世界各地の雨の降り方も大きく変化し、乾燥化が進むところや洪水によつてかえって飲み水などが不足する地域も出てきています。イスラエルで有名な死海も年間1mずつ干上がっているという事でした。年間1mと言るのは物凄いスピードです。世界第四位の大きさだったアララ海でも、干上がった湖底の塩分が風で周囲に飛散し、塩害で農業が壊

このまま行くと、2025年までに世界人口の2/3が水不足になると言われています。水を無駄にせず再利用したり、少ない水を有効に使うという知恵が、イスラエルにはあると思いました。

イスラエル2日目、死海の傍にある最後の砦マサダに行きました。マサダは岩で出来た地上400mの天然の要塞で、エルサレムを追われたユダヤ人たちがそこに立てこもり、3年間、圧倒的兵力を持つローマ軍と戦い続けたところです。AC70年。敵方ローマ軍の中で奴隸として最前線に戦っているユダヤ人の同胞を思つて、マサダに立て籠もっていた967人のユダヤ人が集団自決を決意しました。その目を境にユダヤの国は地図上から消え、ユダヤ人は世界各地に散ることになったのです。その場所を訪れたのです。

「民族の歴史を失った民族は必ず



人であるというだけで、虐待を受け拒絶されてきた長い歴史の中で、底辺から這い上がった不屈の精神力と優秀さを感じました。一人でも生き残っていくための知恵と強い精神が、優れた科学技術、金融資本主義、政治経済などを作り、近代文明を作ってきたのだと思います。

この不屈の精神のバックボーンに聖書があります。聖書で描かれている世界を昨日起きたことのように大事にしているのです。アブラハム、イサクと言った聖書の中の人物を、身近な親戚のような……近しい存在として常を感じているのです。一度は国を失った民族が、約2000年、希望を持ち続け国の再建という約束を果たすことが出来たのは、この聖書の世界……神話が精神の根底にあったからだということが良くわかりました。

今回の旅で、聖書で語られる地を数多く訪れました。そこで感じたのは聖書に描かれている4000年前の出来事が、今も脈々と生きていくということでした。この地に暮らす人々が、聖書の世界を真実の物語として大切に、それが今も生きてい

るからだと思います。引率者である団長の赤塚氏が、各地で聖書の朗読と素晴らしいお話をしてくださいました。そこで語られる世界が本当に生き生きとしていて、聖書がその場で確かに息づいているのを体感しました。

ガリラヤ湖畔にあるタブハのベテロ召命教会に行つたときのことです。赤塚氏が新約聖書の「ヨハネによる福音書」の中でイエス・キリストが十字架の死から蘇つて、弟子のペテロたちに会いに来たときのお話をしてくださいました。



洞爺湖植樹祭

2015年7月26日、北海道洞爺湖で植樹祭が開催されました。

今、1年間に日本列島の3倍近くの森林を伐採し、農地に変えています。人間による過剰な開発の影響で、毎分東京ドーム2個分の面積の森林が失われ、砂漠化のスピードも上がっているのです。当然、地球の生態系に与える影響は計り知れなく、このまま何もしないでいたら、子孫に大変な苦しみを与えることになります。森林は二酸化炭素を吸収し酸素を排出するだけでなく、温度を適温に保ち、地球上に生きる生命体に多大なる恩恵をもたらします。それだけではありません。森は「緑のダム」と呼ばれているように、水を蓄えます。今の日本の森の保水能力は、戦前の頃に比べて10分の1以下になっています。戦後の拡大造林政策の影響でスギ、ヒノキ、カラマツなど本来の植生ではない木々を、間隔を空けずに密植しました。その後、林業の不況によって管理が出来なくなった山は荒れ放題になり、保水能力が落ち、崖崩れがしやすい脆い山になってしまったのです。

地球蘇生プロジェクト短編映画「木を植えよ」にご出演頂いた宮脇昭先生は、潜在自然植生、元々その地域に育つ植生に戻していく植樹活動を国内外広くご指導されてきました。北海道洞爺湖で去年から始まった「9000年続く平成いのちの森プロジェクト」もそのひとつです。潜在自然植生の苗は、最初の3年ほどは雑草などの手入れが必要ですが、やがて人の管理の要らない自然の森へと生長していきます。今年の植樹祭では、50名近くの参加者の皆さんと共に、ミズナラ、トチノキ、ナナカマド、カシワなどの北海道洞爺湖に本来生息していた潜在自然植生の木々を植えました。

木を植えることは命を守ること。
一人一人の心に木を植えること。

木を植えると、今頃あの木はどうしているかな・・・と思うようになります。親から子へ、更にその孫へと伝えられ、やがて子子孫孫へと9000年続くいのちを守る水源の森となるのです。皆さんも是非木を植える活動に参加して、豊かな水源の森を子供たちへと残していきましょう。



「私が好きなか？」
「私があなたを愛するように、私が好きか？」
「……」
この言葉を聴いたとき、私の目に、イエスの目が飛び込んできました。イエスの曇りのない目が身体を貫くを感じたのです。そして体の奥に暖かい神性を感じ全身が、深い暖かさで安らぎに包まれるのを感じました。翌日になっても、ずっと背中に暖かい手を感じました。始終、ずうっ



「私が好きなか？」
「私があなたを愛するように、私が好きか？」
「……」
この言葉を聴いたとき、私の目に、イエスの目が飛び込んできました。イエスの曇りのない目が身体を貫くを感じたのです。そして体の奥に暖かい神性を感じ全身が、深い暖かさで安らぎに包まれるのを感じました。翌日になっても、ずっと背中に暖かい手を感じました。始終、ずうっ

脈々と受け継がれてきている壮大な「巡る命」を、こうした儀式の中で感じるのです。
私たちは大いなる「命の一部」なのです。
神性に触れると、大いなる何か、サムシンググレートに対しての謙虚さを思い出します。穢れを遺さないように生きようという気持ちが自然と沸き起こってきます。
私たちは、自分だけで生きていると思いがちですが、実際は延々と過去から流れてきている命のバトンを受け取っているだけなのです。そのバトンは先祖から自分へ、やがて子孫へと渡していくものなのです。大いなる大自然への謙虚さ、命を尊ぶ姿勢が、御神事に参加することによって思い出されるのだと思うのです。

遠くイスラエルの地ガリラヤ湖で、伊勢で感じた日本の神話の世界と聖書の世界が結びついたのです。
ユダヤ人は、聖書の中に、精神の拠り所を持ち続けてきたのだと思います。日本人は、伊勢神宮などの儀式に象徴されるような大自然に対する畏敬の念と行為からその拠り所を持ち続けたのだと思います。
まだまだ、語りきれない・・・まだまだ、語りきれない・・・まだまだ、語りきれない・・・まだまだ、語りきれない・・・
敬の念と行為からその拠り所を持ち続けたのだと思います。
まだまだ、語りきれない・・・まだまだ、語りきれない・・・まだまだ、語りきれない・・・

まさに神性復興の時代が始まっています。

地球蘇生プロジェクトの歩み

地球蘇生プロジェクトでは、年間通して様々な勉強会・イベント・体感ツアー等を開催しています。こうした活動を通して有益な情報をみんなで共有し、共に地球蘇生に向けて行動していきたいと思っています。是非ご参加ください。

2015 4月~10月

- 4月**
- 2日 東京都 山元学校 映画「蘇生」告知
 - 4日 祝 渋谷アップリンク 映画「蘇生」劇場公開・監督舞台挨拶
 - 7日 神奈川県 高藤恭胤氏 インタビュー撮影
 - 11日 祝 大阪シアターセブン 映画「蘇生」劇場公開
 - 13日 祝 名古屋シネマスコアール 映画「蘇生」劇場公開
 - 18日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映・監督トークライブ
 - 21日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映・監督トークライブ
 - 25日 東京都 日本ユウガ学会主催 映画「祈り」上映・監督講演
 - 28日 5月6日 イスラエルツアー《特集参考》
 - 16日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映 今野華都子×白鳥哲 対談
 - 17日 静岡県 富士聖地 SOPP2015
 - 19日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映 おしどりマコ×白鳥哲 対談
 - 30日 31日 岡山県「恩送り」コミュニティ「候補地視察
 - 6日 福島県福島市 映画「蘇生」上映(地球蘇生プロジェクト共催)
 - 12日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映 山岡尚樹×白鳥哲 対談
 - 13日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映 秋山佳胤×白鳥哲 対談
 - 14日 福島県福島市 映画「蘇生」上映・監督講演(地球蘇生プロジェクト共催)
 - 19日 名古屋シネマスコアール 映画「祈り」上映・監督舞台挨拶
 - 20日 名古屋シネマスコアール 映画「蘇生」上映・監督舞台挨拶
 - 全米ラジオ 監督中継出演
 - 21日 京都府 麻アースデイ 取材撮影
 - 24日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映 吉元由美×白鳥哲 対談
 - 27日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映 光田秀×白鳥哲 対談
 - 神奈川県 麻炭フェスタ 伊香賀正直氏 インタビュー撮影
 - 4日 三重県 今野華都子洗顔洗心塾全国大会 監督挨拶
 - 5日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映 高田博司×白鳥哲 対談
 - 6日 渋谷アップリンク 映画「蘇生」上映 ソーヤー海×白鳥哲 対談
 - 東京都 ソーヤー海氏 インタビュー撮影
 - 10日 三重県 「恩送り」コミュニティ「候補地視察
 - 11日 三重県 映画「蘇生」上映・監督講演
 - 12日 宮城県 映画「蘇生」上映・監督講演

- 8月**
- 18日 東京都 ヒカルランド主催シンポジウム 監督講演
 - 25日 北海道 洞爺湖植樹祭 取材撮影
 - 26日 福島県郡山市 映画「蘇生」上映(地球蘇生プロジェクト共催)
 - 15日 愛知県 映画「蘇生」上映・監督講演
 - 16日 愛知県 映画「蘇生」上映・監督講演
 - 比嘉照夫×森美智代×白鳥哲 会合
 - 23日 福島県いわき市 映画「蘇生」上映(地球蘇生プロジェクト共催)
 - 29日 福島県田村市 映画「蘇生」上映(地球蘇生プロジェクト共催)
 - 30日 北海道 映画「蘇生」上映・監督講演
 - 3日 東京都 映画「リーディング」予告編上映・監督挨拶
 - 6日 大阪府 映画「蘇生」上映・監督講演・高田博司氏と対談
 - 12日 京都府 京都嵯峨芸術大学学長 森本武先生 会合
 - 祝 長野シネマポイント 映画「蘇生」劇場公開
 - 祝 新潟シネ・ウインド 映画「蘇生」劇場公開
 - 18日 渋谷アップリンク 映画「祈り」3周年記念監督トークライブ&懇親会
 - 20日 神奈川県 茅ヶ崎環境フェア 映画「蘇生」上映舞台挨拶
 - 23日 栃木県 麻農家 取材撮影
 - 24日 神奈川県 ソーヤー海氏 密着取材撮影
 - 9日 東京都 第1回「祈りと瞑想お茶会」@浅草橋事務所
 - 12日 東京都 ZPO法人心とからだの研究会・20周年記念
 - 「気功健康セミナー&ヒーリングステージ」氣は未来を開く。ゲスト出演
 - 18日 大阪府 映画「蘇生」上映・監督講演
 - 21日 東京都 第2回「祈りと瞑想お茶会」@浅草橋事務所
 - 27日 愛知県 映画「蘇生」上映・監督ビデオ舞台挨拶
- 9月**
- 6日 大阪府 映画「蘇生」上映・監督講演
 - 5日 京都府 京都嵯峨芸術大学学長 森本武先生 会合
 - 12日 祝 長野シネマポイント 映画「蘇生」劇場公開
 - 18日 渋谷アップリンク 映画「祈り」3周年記念監督トークライブ&懇親会
 - 20日 神奈川県 茅ヶ崎環境フェア 映画「蘇生」上映舞台挨拶
 - 23日 栃木県 麻農家 取材撮影
 - 24日 神奈川県 ソーヤー海氏 密着取材撮影
 - 9日 東京都 第1回「祈りと瞑想お茶会」@浅草橋事務所
 - 12日 東京都 ZPO法人心とからだの研究会・20周年記念
 - 「気功健康セミナー&ヒーリングステージ」氣は未来を開く。ゲスト出演
 - 18日 大阪府 映画「蘇生」上映・監督講演
 - 21日 東京都 第2回「祈りと瞑想お茶会」@浅草橋事務所
 - 27日 愛知県 映画「蘇生」上映・監督ビデオ舞台挨拶
- 10月**
- 27日 愛知県 映画「蘇生」上映・監督ビデオ舞台挨拶

◎お祈りの履歴(前号に引き続き・6月~10月)

- 6月5日 中国大型客船転覆事故への祈り
- 6月15日 ジョージアへの祈り
- 6月21日 中国湖北省への祈り
- 6月24日 パキスタン南部のカラチへの祈り
- 7月21日 地球への祈り
- 8月21日 第二次世界大戦、大東亜戦争で亡くなられた方々への祈り
- 9月10日 茨城鬼怒川堤防越水の被災に遭われた方々への祈り
- 9月21日 関東・東北豪雨で被災された方々への祈り
- 10月21日 地球の全ての生命体への祈り

事務局からのお知らせ

< 地球蘇生プロジェクト応援「アーシアン基金」2016年度募集のお知らせ >

1/10000の「アーシアン(EARTHIAN)」になりませんか?

私たち人類は、この地球に住まわせていただいている地球生命体(アーシアン(EARTHIAN))の1つにすぎません。70億人の人口のうち、1万人の人々が希望あふれる未来を意識し、行動すると、世界は一瞬で変わり始めます。

地球蘇生プロジェクトでは、応援いただいた基金(アーシアン基金)をもとに、食・教育・医療・エネルギー・環境・経済など各分野において次世代の子供たちへ命をつないでいくための手段を映像化しています。ひとりでも多くの方にご覧いただき、地球の未来を支える地球生命体(アーシアン)が増える事を願ってやみません。「アーシアン基金」へのご協力をお願いします。詳細 <http://earthianalliance.com/fund.php>

協賛金額 1) 任意
2) 1口 50,000円以上の任意額 — 映画のエンドロールへのお名前記載をご希望いただけます。受付期間中に作品リストからご希望の作品をお選びください。

受付期間 年間を通し随時受付致します
※11月1日からは翌年の協賛金として受付 ※振込時の控えを支払証明書として保管してください。
※入金情報をより迅速に照会するためにも、お申込フォーム(紙面・インターネット等)での事前登録をお願い申し上げます。

- ◆ 初回特典
 - ◎地球蘇生プロジェクト・ビジョンシート(A4)
 - ◎メールマガジン
 - ※初回基金時に自動的に登録させて頂き、メルマガを通して白鳥哲監督のホットな情報を発信していきます(配信停止をご希望の場合はご連絡ください)
- ◆ 年間特典
 - 11/1~翌年12/31まで有効
 - ◎当年限定 アーシアン(地球生命体)カード(監督の「お祈り」入り図形カード)
 - ◎イベント: 基金にご協力頂いた年に限り、体感ツアーなど、各種イベントに優待割引でご参加頂けます

< 地球蘇生プロジェクト通信をブログへ移行致します >

よりホットな情報をリアルタイムで皆さまにお届けできるように、「地球蘇生プロジェクト通信」の発行を終了し、OFFICE TETSU SHIRATORI 地球蘇生プロジェクト公式ブログとメルマガを通して最新情報を発信していくことに致しました。(インターネット環境の無い方で印刷媒体をご希望の方はお問合せください。)

何卒、本趣旨をご理解の上、引き続きご支援のほど宜しくお願い申し上げます。(基金をお寄せいただいている皆さまには収支報告を別途ご連絡致します)

OFFICE TETSU SHIRATORI 地球蘇生プロジェクト公式ブログ・各テーマのご案内

- ◎ 白鳥哲の今 白鳥哲が想いのままに綴る、日々の出来事から時代の最先端の情報
- ◎ 白鳥哲の祈りの呼びかけ 毎月21日に行っている「祈り」の内容を掲載
- ◎ お知らせ 事務所からのお知らせを掲載
- ◎ イベント・勉強会 OTS主催のイベント・勉強会の開催情報を掲載
- ◎ 映画情報 白鳥監督作品上映の劇場・自主上映案内、および映画制作情報も掲載
- ◎ 蘇生ぶろぐ in 福島 地球蘇生プロジェクトにおける福島での活動報告を掲載
- ◎ スタッフのつぶやき OFFICE TETSU SHIRATORIのスタッフがつぶやきます
- ◎ 白鳥哲出演作品 俳優・声優の出演作品をお知らせします
- ◎ メディア掲載 メディア掲載報告
- ◎ ツイートまとめ Twitterのアーカイブ

◎ 通信のバックナンバーはHPからダウンロード出来ます。ご利用ください。



地球蘇生プロジェクト

命をつなぐ幸福度の高い地球社会を創る



◆ ライフスタイル 祈りが精神的軸

食

- 愛と慈悲の小食
- 自給自足
- 半農半芸
- 地産池消

教育

- 魂の教育
- 足るを知る
- 利他の精神
- 右脳教育
- 慈愛教育
- 生体エネルギー学
- 波動学

医療

- 量子物理学的全体医療
- 医療大麻
- 祈り
- ヒーリング
- 音響療法

エネルギー・技術

- エネルギーアート
- 共生テクノロジー開発
- 蘇生技術
- フロンティアサイエンス
- ヘンプ

◆ 政治 地球全体を第一主義として考える

環境

- 水源保全
- リトリート(全生命の安楽地)
- リユース
- リサイクル

経済

- 分かち合う経済
- GNH(国民総幸福量)
- 「寄り合い」制
- 地域主体
- 農業中心

防衛・外交

- 南極スタイル
(個・人種・国を超えた共同体・共同作業)
- 自衛防衛
(愛を伝えつづけることが最大の自衛防衛)

税・社会保障

- 江戸モラルの実現
(与えるものが受け取るもの)
- 「恩送り」
- 「相身互い」
- 「お蔭さま」